

発売40周年の空冷DOHC4バルブスポーツ、ホンダCB-F。長く楽しむための提案に注目!
カスタム & メンテナンスを楽しむ決定版!

ヘリテイジ & レジェンズ

Theグッドルッキングバイク撮影会

SUGO全日本
2ストミーティング

Heritage & Legends 10

HONDA CB-F Series

2019
OCTOBER
Vol.4

ミスターバイクBG
10月号臨時増刊
Heritage&Legends Vol.4
第34巻第13号
2019年10月1日発行

快空冷4バルブの走りと形を楽しむ!

進化する維持&快調の手法

マシナリ:CB-Fアップデートの要点
日商:快走仕様CB-Fの作り方!
ホンダ:心配のないFエンジンとは?

カスタムマシンショーアップ

FオマージュのCB1100改含む、垂涎の7台!

ホンダのパーツ再生産詳報

さらに23点が加わり充実するラインナップ!

カスタムTOPICS: With Meの提案、バトルレイヤーズ

新カスタムマシン紹介: ザ・グッドルッキングバイク

注目の注目。鈴鹿8耐SSTクラス: Moto Map GSX-R1000R

東部でカスタム?!: カワサキZ1000LTDがやって来た!

Memoir of 90's scene!

懐かし
企画!

90's カスタム
バイク界
回想録

あの頃、カスタムが目指していたのは……



Striker System Yokohama Z900RS SZ-019



出揃った各部パーツを 生かしたコンプリート車の アップグレード仕様

TIRE: PIRELLI DIABLO SUPERCORSA
[F]120/70ZR17・[R]180/55ZR17

The Goodlookin' Bike
ザグッドルッキンバイク

「車体全体に渡ってのパーツもほぼ出揃ったこともあって、それらを組み合わせたコンプリートカスタム車をHP上で提案したんです。反響もあっていくつかお問い合わせをいただいたので、まず製作に至ったのがこの車両です」

ストライカーシステムヨコハマの店長・鈴木さんがそう説明するのが「Z900RS SZ-019」と名付けられたコンプリート車だ。8月号でも紹介した緑火の玉カラーの同店デモ車（P112）にも登場。がプロトタイプとも言え、「ベシッパッケー」はGストライカー・セパレートハンドルキットや同スイングアーム（バフ仕様）、アルミビレットフェンダーレスキ

ットにSTCステップキット／タンデムステップバー、ストリートコンセプト・チタンフルEX（真円サイレンサー）、ラジエーターコアガードにガードスライダー。あと表皮張り替えとロゴ入れによるオリジナルカスタムシート加工が備わって税込み198万円のプライス、納期は1カ月から1カ月半。上の車両はさらにオプションメニューを追加（それぞれに追加料金が必要）しアップグレードを図ったもので、イエローボール塗装に前後フェンダーはSADカーボン、排気系はストライカー・チタンブラックラインに。Fマスターはブレンボ、キャリアーも同ラジアルマウントでディスクはサンスター、前後サスもオクムラMEチューニングと、現在提示されているほとんどのメニューが追加され

ている。この車両ではさらに前後ホイールもMAGTAN JB4に換装され、カスタムらしさもより高められている。

乗ってみるとハンドルキットとシート／ステップが作り出すポジションが良好で車両をコンパクトに感じられ、ホイール変更もそれを強調してくれる。マフラーからの排気音もジェントルだし、足まわりの上質な仕上がりにあって、これなら普段使いにも走行会にもノーマル以上に身近に楽しく活躍してくれそうな雰囲気。

発売から2年近くが経ちつつも人気の衰えないZ900RS、そろそろ車両にも慣れて大きく手を入れてみようか……。そう考える人にも勧めてみたいコンプリートカスタム。その好例がこのZ900RS SZ-019と言えそうです。



1 2 3 4 ストリートHi（STD:垂れ角は0°）/Low、レーシングHi（垂れ角5度）/Lowで開き角自由のGストライカーセパレートハンドルキット（Z2ショートミラー込みでの販売）はこの車両の核をなす部分。自然に手が出る位置でハンドルが握れるポジション設定だ。Fマスターはブレンボラジアルでシートはオリジナル張り替え。フェンダーレスキットは独自の削り出し立体ステーによるもの



5 6 948ccの直4エンジンとFIはノーマルで、ラジエーターコアガードとSAD（ストライカーエアロデザイン）カーボンラジエーターサイドシェラウド（オプション）を追加。ガードスライダー（黒またはシルバー）は標準装備。マフラーはこの車両ではオプションのストライカー・チタンブラックライン（サイレンサーはインターモデル形状）を装着

7 8 9 10 前後ショックはスクーデリアオクムラによるMEチューニング（オプション）を施し、MAGTAN JB4ホイール（オーナーのオーダーによる。3.50-17/5.50-17サイズ）を履く。スイングアームはGストライカーでステップはストライカーSTC4ポジション。前後フェンダーはSADカーボン（オプション）。細部仕様はオーダー時に相談できる

今春、筑波サーキットでの、テスト・オブ・ツクバSATSUKI STAGE内で開かれた、バトルレイヤーズによる走行。モータースポーツTVの視聴者参加イベントとしての位置づけで、タイムアタック形式を採ったが、なにより「楽しさ一番。転倒などしないように、ほどほどに」が基本だったという。もちろん、11月開催のKAGURA-DUKI STAGEでも開催予定だ



エンタラントは皆
こたわりを語り倒す!!



現在は自らが興したWITH MEの会長職にある、丸山 浩さんは55歳。国際級ライダーとして、かつては全日本ロード、鈴鹿8耐など数々のレースに出場。テスト・オブ・フリーランス(現TOT)でも、当時のF-ZEROクラスにCB1000SFで参戦。観客を魅了した。屈指の2輪ジャーナリストとして各誌で活躍のほか、自らもモーターステーションTVを立ち上げ、2&4輪とモータースポーツの魅力を発信し続けている

WITH ME 会長 丸山 浩



取材当日、筑波コース1000でのWITH ME走行会にも、バトルレイヤーズのエンタラントが。走行の合間に丸山さんがマイクを向け、愛車への想いをインタビュー。カスタムバイク好きの丸山さんらしく、こたわりポイントを次々と聞き出して。ちなみに今季はノートン・ロータリー+堀江さん(上)が他者を圧倒的リードも、最近放映されたNEN・田中代表のCBR400F風、現行CB650F改が猛烈な追い上げを見せているとか。これから参加しても、逆転の可能性あり!

カスタム好きのための カスタム好きによる カスタムプロレスバトル 勝者には海外旅行も?!

Motor Station TV
BATTLE LAYERS 2019
バトルレイヤーズ2019

Report:編集部 Photo:赤松 孝/富樫秀明
協力:ウィズミープロフェッショナルレーシング
〒123-0864東京都足立区鹿浜7-11-3
☎03-5838-7397 www.withme-racing.com

カスタムバイク露出減少
に危機感が募ったから

丸山 浩さん率いるWITH MEがYouTube上で展開中のコンテンツ、モーターステーションTVで昨春からスタートした“バトルレイヤーズ”。愛車のカスタム&コスプレで競い合う? タイムじゃなくて熱量で?? その真意と目指す未来を、仕掛け人の丸山さんご本人にじっくりと聞いてみた。

丸山 浩さんが現在会長を務める、WITH MEプロフェッショナルレーシングといえば、CB系が得意なカスタムシヨップとしての顔はもちろん、4輪車も含めた車検・整備、そしてそれらのオーナーに楽しんでもらう各地での走行イベントの開催など、その幅広い活動は知られるところだ。同社が始めたYouTube上のチャンネル「モーターステーションTV」も、そのひとつ。当初は新車とその周辺情報が主体だったが、昨年あたりからはカスタムに関するコンテンツも目立って増え始めた。ここで話題とする、バトル

レイヤーズも、そんなコンテンツのひとつだ。

「これまで僕は、H&Lの前身・ロードライダー誌を含め、二輪誌で過去に数多くのカスタムバイクに乗り、インプレッションを書かせてもらってききました。冗談で聞き流してほしいですが、『日本が一番カスタムバイクのインプレッションを書いた男だ』って、よく自慢したものです(笑)。けれど最近アレっ?と思うくらい、二輪誌でカスタムの話題が取り上げられなくなりました。つまるところ、ブームから外れちゃったんでしょうけれど、僕は相変わらずカスタムが好きだし、僕と同じように好きでやっているシヨップさんも、そしてなによりユーザーがガッカリしているだろうなあって。

カスタムは誰のためにやるものでもない。自己満足の趣味なんだけれど、それでも手塩にかけて作り上げた自分のカスタムバイクが多めの人の目にとまって、褒めら

バトルの出発点は CB-Fプロジェクト?!



WITH MEで販売中の現行CB1100にFレプリカ外装をまとわせた、CB1100Fプロジェクト。そこからカスタムを施した車両をF+（プラス）と呼び分けるが、写真は同店デモ車の最新仕様だ。こうした活動が、バトルレイヤーズ発案のきっかけになったことは間違いないだろう



っても、個人の思い入れがちゃんと表現されていればOK。もちろん、車種も排気量も不問にも古いバイクでなくていい。NENのCBR400F風CB650F改（P113右下に紹介）は、実は個人車なので本来はブライベーターなのですが、田中代表自身が作り込みを語りたいって聞いて聞かない。『海外旅行なくなりますよ』って念を押すと『それがかまわない』と。

でも、熱の入ったカスタムって、そんなものだと思います。自分からはいかなければ、聞いてくれるなら伝えたいことはほとばしり出る。僕にはそんな気持ちがよく分かります。その思いをすくい取り、ウチのコンテンツで発信して、共感してくれるカスタム好きが『俺はもっとすげえヤツを作ってる！』ってなれば、カスタム界はまた、元気になるんじゃないかと。



2019バトルレイヤーズ 今後の開催スケジュール

9月23日（月・祝） 筑波2000走行会
9月29日（日） 袖ヶ浦FRW走行会
11月9日（土） TOT KAGURA-DUKI STAGE
11月24日（日） 袖ヶ浦マル耐

バトルレイヤーズの詳細は、WITH MEプロフェッショナルレーシングのHP（www.withme-racing.com）か、モーターショー・ステーションTVのツイッター（https://twitter.com/WITH_ME_PRT）で。エントリーは、「バトルレイヤーズ参加希望!」のタイトルで、氏名・携帯電話番号・参加希望日・マシン名・カスタム内容やこだわりを書いて、mstv@withme-racing.comまでメールで応募を

「ITH MEに相談してください」

そうそう、TOTでの走行枠は11月にも取りますよ。ウチのWITH ME走行会内も含め、年内はあと4回、バトルレイヤーズを開きます。この機会にサーキットに興味をもってもらって、練習して自信がついたなら、レースイベントにも誘いたい。本来、テスト自体が皆で楽しむサンデーレースですから、本気のコンペティション以外のコンテンツも拡充させたら、もっといろんな人にカスタムに興味をもってもらえるかもしれないじゃないですか。

今、バトルレイヤーズで前面に出ているのは80年代車や、それをオマージュしたカスタムばかりだけど、本来は車種・排気量とも不問。大事なのはその人がいかに愛車のカスタムに情熱を傾けているかだと思ってます。その人が思いついた新しいアイデアや手法が、今後のカスタム界を動かすかもしれないから、『これでいいの?』って躊躇しているなら、気軽にWITH MEに相談してください」

競うのはタイムではない ほとばしる情熱の闘いだ

「バトルレイヤーズを初めて公に

れたりしたら嬉しいじゃないですか。だってやっぱり、僕自身がそのうだもの。もちろん、WITH MEでのバイクは商売。けれど、『カッコいいね』ってお客さんが言ってくれば嬉しいし、『よおし!』も嬉しいヤツを作るぞ』って原動力になりますから。

バトルレイヤーズってコンテンツを作ったのは、そんなきっかけから。でも、ウチが始めた半年後、ロードライダーが終わっちゃったのには焦りましたよ! ホントに!!（笑）（丸山さん。以下同）



#88・CB900Fピエトリ号は '18年年間チャンプ 今季の栄冠は誰に?



前頁でも紹介した、TOTバトルレイヤーズ走行枠の参加者たち。#88が昨年の年間チャンピオンに輝いた牧野さんのCB900F。最上はストライカー・マフラーなどでお馴染み、カワズインターナショナルの新 辰朗代表。周囲に参加を促す、バトルレイヤーズのよき理解者という



見ていただいたのは、昨春のテスト・オブ・ツクバSAT SUK I STAGE。バトル・ナレイヤーズ。って名前から、あの頃のレプリカでサーキットを走って競いあう……みたいなイメージを抱いていた方もいたかもしれない。でも、作られたバイクのこだわり

ポイント、思いの丈を、基本60秒の映像枠で語ってもらう。それをYouTubeに上げて、コメント数と視聴数をメインに競うチャンネル上のイベントです。細かく言えば、それに再生の勢いだったり、ウチの事務局の判断だったり総合的に加味して、年間チャンピオンを決める。そんな

「それこそ2000年代初頭までの、テスト・オブ・フリーランス（現TOT）のモンスタークラスなど、エディ・ローソンやフレディ・スペンサー、ウエス・クリーミみたいなAMAスーパーバイクのレプリカさんがいたし、凝ったチームなど、ZがAMAにデビューして間もない頃の、レグ・ブリッドモアが駆ったレースクラフト・レプリカ（リヤカウルにオイルクーラーが設置された独特の仕様だった）なんて作って、『おほ!』ってパドックが沸いて……。皆が『こんなバイク作ったぜ』的な見せびらかしの場だったのですが、人気が出てモンスタークラスが先鋭化すると、そんな遊びの余裕もなくなる。レースだから当然ですが、一方でそんな楽しい遊びを見せられていた人たちの行き場もなくなった。そんな受け皿にもなりたいた、と」

バトルレイヤーズは、パーツメーカーやショップがデモ車を発表する『ワークス』と個人車の『ブライベーター』の2クラスがある。『ブライベーター』の2クラスのチャンピオンが先の海外旅行プレゼントの対象です。でも、全部自分でカスタムするわけにもいかないですから、バイク屋さんにも作ってもら

「遊び」なんです。そして年間チャンピオンには、WITH MEが海外旅行にご招待（笑）。私どもが提供するのには往復交通費と現地宿泊代ですが、自身のCB900Fピエトリ号を熱く語って去年のチャンピオンとなった牧野さんには、3泊4日のプーケット島旅行をプレゼントしました」

「それこそ2000年代初頭までの、テスト・オブ・フリーランス（現TOT）のモンスタークラスなど、エディ・ローソンやフレディ・スペンサー、ウエス・クリーミみたいなAMAスーパーバイクのレプリカさんがいたし、凝ったチームなど、ZがAMAにデビューして間もない頃の、レグ・ブリッドモアが駆ったレースクラフト・レプリカ（リヤカウルにオイルクーラーが設置された独特の仕様だった）なんて作って、『おほ!』ってパドックが沸いて……。皆が『こんなバイク作ったぜ』的な見せびらかしの場だったのですが、人気が出てモンスタークラスが先鋭化すると、そんな遊びの余裕もなくなる。レースだから当然ですが、一方でそんな楽しい遊びを見せられていた人たちの行き場もなくなった。そんな受け皿にもなりたいた、と」